

盛岡で開催された東北絆まつり

東北絆まつりは、東日本大震災を契機に始まった「東北六魂祭」を前身としています。震災からの復興を後押しすると共に、東北の元気を全国へ発信することを目的に、2011年から各県持ち回りで開催されてきました。その後、「東北絆まつり」へと改め、現在も東北六県が順番に開催地を務める持ち回り形式で続けられています。

東北の夏祭りが一堂に会する「東北絆まつり2026」が、盛岡市で開催されました。会場となった盛岡城跡公園やもりおか歴史文化館前広場には多くの来場者が訪れ、東北六県を代表する祭りが織りなす迫力と華やかさに包まれました。パレードでは、青森ねぶた祭、秋田竿燈まつり、山形花笠まつり、仙台七夕まつり、福島わらじまつり、そして地元・盛岡さんさ踊りが次々と登場。巨大ねぶたの躍動、竿燈の妙技、花笠の華麗な舞、七夕飾りの彩り、勇壮な大わらじ、そして太鼓の響きが街を彩り、沿道は熱気に包まれました。会場内には東北各地の観光PRや飲食・物販ブースも並び、名物グルメや特産品を楽しむ姿が見られました。

「多彩な東北が、熱い絆でひとつになる。」というテーマのもと、震災復興への感謝と未来への希望を発信した今年の盛岡開催。東北の魅力と力強さを改めて感じられる2日間となりました。



岩手県の八幡平山頂にある鏡沼では、この時期、雪解けの進み具合によって“龍の眼”のような模様が浮き上がり「ドラゴンアイ」と呼ばれています。このドラゴンアイは、初夏の八幡平を象徴する神秘的な景観として多くの人に親しまれています。周辺は、出没情報はないものの熊の生息地でもあり、散策中は少し緊張しましたが、澄んだ空気の中で眺めていると自然の豊かさと美しさを改めて感じることができました。